昭和大学附属烏山病院だより
あおぞら

〔発行責任者〕病　院　長　岩波　明
〔編集責任者〕広報委員長　常岡　俊昭
〔住所〕〒157-8577 東京都世田谷区北烏山6-11-11
〔電話〕03-3300-5231(代表)

第１５８号　［２０２０年９月３０日発行］

いたみ外来ＤＥＢＵＴ

精神医学教室　助教　冨永　陽介

国内には長く続く苦しい痛みを抱えている方が 2000 万人いるといわれ、そのうちの 1/3 は生活に支障をきたしていると言われています。高齢化率は（2020 年 9 月 15 日現在 28.7%）世界ダントツの一位であり、これからも体の苦痛を訴える患者の数は増えていくことが十分に予想されています。一方で痛みを抱える 2 割の方しか病院を訪れず、さらに 2 割は民間医療に流れ、残った半数以上の方はどこの医療機関や施設にもかからず、じっと耐えているだけという報告もあります。医学の根本が、人々の病苦からの解放があるはずにもかかわらず、それに対してほぼ無力の状態が今の医学の状況と言わざるを得ません。

例えば、痛みを抱える患者さんが病院に行きますと、3 分診察の後、投薬、注射、手術といった“治療”を受けることになりますが、そのようなやり方でよくなるケースは限られています。長く続く慢性の痛みは複雑であり、さまざまな因子が絡み合っている場合があります。そういう場合には、“集学的痛み診療（multidisciplinary pain treatment：MPT）”といった診療方法が国際標準となっており、海外各国では痛みに困っている患者を受け入れる施設が公的に 設置されています。しかし、日本ではこのような医療体制は全く整っておらず、それぞれ個々の医療機関レベルの努力に期待するのが現状となっています。

私は、その“集学的痛み診療”を行っている数少ない国内施設である、前職横浜市立大学附属病院麻酔科ペインクリニックにおいて診療しておりました。そこで日々痛みの診療を重ねていくうちに、痛みの診療には心理・精神医学的評価・介入が不可欠であり、精神医療のインフラを痛み診療に導入すべきではないかと考えるようになりました。

集学的痛み診療とは、痛みが身体的心理的社会的な因子からなることを理解した各専門家らが集い、患者さんの ADL、QOL を上げるためにお互い協力しながら行われる医療です。基本のユ ニットは、医師、看護師、心理士、理学・作業療法士であり、さらに薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなどが加わっていきます。

当外来の診療の流れとしては、まず医師による詳細な問診・診察を行いながら、身体因、心理因、社会因を評価していきます。外来通院を重ねながら治療を進めながら、評価・診断を進めていきます。その中で、リハビリテーションが必要な場合には理学療法士、心理的評価やアプローチが必要な場合には臨床心理士に相談します。当院“いたみ外来”は、辛い痛みを抱える患者さん達の地域における一つの受け皿にならんとする決意でございます。

新しい専門外来、“いたみ外来”をどうかよろしくお願い申し上げます。

部署紹介　図書・資料室

司書　山菅　聡美

烏山病院の正面玄関を入り、スタインウェイのグランドピアノから天井に目を向けると、吹き抜けの部屋の明かりが見えるでしょうか？　その部屋が学生・職員専用の烏山病院図書・資料室です。

皆さんはどんな時に「図書館に行こう。」と思いますか？　本を借りて読み返しに行く、雑誌を拾い読みして欲しい記事を複写する、見逃した新聞記事を探す、インターネットの検索結果を印刷する、机で書き物をしたり、椅子に座ってちょっと一息つきたい、など楽しみ方はいろいろあるでしょう。

地域の図書館では住民に参加を呼び掛けて、各種イベントが行われたりします。コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされ、再開を待ち望んでいる方もいらっしゃるのではないでしょうか?

当室では、学生実習での学びを支援し、臨床研修医の研鑽を推進し、医師や看護師をはじめ様々な職種の医療従事者に対して、診療・教育・研究の 3 本柱が充実されますように取り組んでおります。

症例報告・服薬の注意点・最近の心理療法・領域別リハビリの方法などを、医療者は根拠となる論文で確認し、病棟のケースカンファレンスや外来診察・心理面接、各種グループワークで話し合われ、医療チームとして患者さんやご家族と共有しています。

また、働きながら学士・修士・博士の取得を目指す職員や、精神保健指定医・精神科専門医・精神科専門看護師・精神科専門薬剤師・公認心理士・社会福祉士・ケアマネージャーなどの資格を取得する職員、ラダー別教育・研修プログラムを受講する職員など、勤務時間外も含めた自己研鑽にあたる職員の皆さんを、24 時間使える図書・資料室が今後もバックアップして参ります。

部署紹介　防災センター

隊長　木下　剛志

警備を担当している株式会社パトロールサービスです。医療スタッフの一員として、職員の皆様が安心・安全に医療行為を行っていただけるよう、２４時間体制で奮闘しております。平時は鍵の貸出をはじめ、出入管理、館内外の巡回、駐車場の安全管理、駐輪場の整理、救急搬送時の誘導、暴言暴力等による緊急時の警戒業務、コードブルー・コードホワイト等の緊急放送、時間外の代表電話交換等と多岐にわたり活動をしております。ひとたび緊急事態が発生すれば事務課や監視室、看護師、医師の方々とその都度連携を取り、現場確認や警察・消防への通報を実施し、迅速な対応に当たっています。また、時間外窓口事務業務につきましては受付、預かり金、入院案内等を担当しており、患者さんをお待たせしないことを念頭に置きスピーディーな対応を心掛けております。業務中ふとしたタイミングでいただける患者さんや職員の方々からの「ありがとう」のお言葉は本当に励みになります。少しでもお力になれるよう今後もきめ細かい対応を心掛け、尽力していきますので、どうぞよろしくお願いします。

みんなの創作プログラムでの活動

Ｋ・Ｅ　さん

みんなの創作プログラムは木曜日の午前中に行っているプログラムです。

９月最初の創作プログラムでは、いざと言うときに履ける防災スリッパを作りました。私は今回スタッフさんのアシスタントとして参加しました。新聞紙で作るので壊れやすいのかなと思いましたが、意外と丈夫でカイロを入れたりすることもでき、保温ができるので避難所の体育館などでも温かく履くことが出来ます。　作業する際に何ヵ所か難しく戸惑う姿も見られましたが、みなさん出来上がるとシールやペンなどを使って自分なりにデコレーションを楽しむ姿も見られました。

みんなの創作では毎回何をするのか楽しみがあり、色々な作品を作ってデイケア内に飾ったり、持ち帰ったりしています。みなさんも機会があればぜひ参加してみてください。

災害時の備え　備蓄食品（烏山病院編）

栄養科　柴本　真治

当院は世田谷区の中心部に位置し、昨年は区内の多摩川で氾濫を経験したことや、病院の特性から災害対策には万全を期する必要があると思われました。
そのため栄養科では、従来の災害時用献立・保管食数・保管方法を全面的に見直し、「水確保」と「スタッフが困らない食事提供」を目標に、管理課と半年間検討を重ね新たな体制を整えることとなりました。
献立は緊急時用として１日分、備蓄食品数は、患者用 300 食(うち粥 100 食）と職員用 250 食の計 1 食 550 食を 3 日分で計 4950 食。保管場所は、主に中央棟 3 階備蓄倉庫、入院棟 1 階栄養科倉庫・食堂。さらに不測の事態を想定し、各病棟に備蓄食品 1 日分（3 食分×患者数）の設置が必置となります。
今後栄養科では、消費期限間近の備蓄食品を患者食献立に組入れることや、病棟スタッフ用に簡潔な「緊急時食事提供マニュアル」（備蓄食品の調理法、食事提供について）の作成を順次行う予定です。
もし、烏山病院で災害に遇ったら、まず第 1 にご自分の生命を守る行動を。第 2 に....水と食糧は確保してありますので、ご安心下さい。

★現在備蓄食品入替えで、倉庫が空に近い状態です。写真提供は難しいです･・。

総合サポートセンター

～受診・入院のご相談～

受付：月曜日～金曜日・８時３０分～１７時
　　土　曜　日　　８時３０分～１３時
電話：月曜日～金曜日０３－３３００－５３２９
　　土　曜　日　　０３－３３００－５２３１
◎初診受付：月曜日～土曜日・８時３０分～１１時

≪8 月 ≫	入 院(前 月)	外 来(前 月)
◆延 患 者 数	7,860 (7,845)	5,743 (5,871)
◇一日平均患者数	253.5 (253.1)	229.7 (234.8)
◆診 療 実 日 数	31 (31)	25 (26)

広報委員会では、皆様のご意見ご感想をお待ちしております。連絡先は k-kouhou@ofc.showa-u.ac.jp

【 編 集 後 記 】

今年の夏はとても暑かったですね。感染予防のため外出時にマスクが必要となりより暑い夏でした。
烏山病院でも感染予防のため、病院の建物に入られる方にマスクの着用、手指消毒、検温のご協力をお願いしております。皆様、快くご対応いただき感謝しております。
コロナ禍の新しい生活様式では、おうち時間をより充実していきたいです。今まで興味があったが取り組めなかったことなど、自分磨きができたらいいですね。

広報委員　富田